

令和6年2月1日14時00分

近畿地方整備局

福井河川国道事務所

道の駅「九頭竜」の来場者数が約14%増加

～ 一般国道158号 大野油坂道路の整備効果 ～

国道158号 中部縦貫自動車道 大野油坂道路（延長35.0km）のうち、勝原IC～九頭竜IC間（延長9.5km）の令和5年10月28日開通による効果をとりとまとめましたのでお知らせします。

■開通による整備効果

①交通状況の変化

- 並行道路である国道158号の交通の約5割が大野油坂道路に転換
- 事業中区間（九頭竜IC～油坂出入口(仮称)）の断面交通量も約6割増加
- 大野市役所～和泉地域交流センター間の旅行速度が向上し、所要時間が約11分短縮

②観光施設の賑わい

- 開通後1ヶ月で、道の駅「九頭竜」の来場者数が約14%増加（道の駅の約1ヶ月の来場者数 約1.7万人⇒約2.0万人）
- 校庭跡地へのホテル建設や、六呂師高原へのオートキャンプ場の開発が予定されるなど、宿泊施設の建設が進行中

③救急搬送の速達性・安定性の向上

- 和泉～福井県立病院間の所要時間が約3割の短縮（約71分⇒約53分）
- 横揺れが少ない安定した走行が可能に  
（急ブレーキ・横揺れの発生頻度 約1/10 以下に低減）

<取 扱 い>

<配 布 場 所>

近畿建設記者クラブ  
福井県政記者クラブ

大手前記者クラブ

<問 合 せ 先 >

国土交通省 近畿地方整備局 福井河川国道事務所

副所長 沼 勝雄 (内線 205)

計画課長 大森 功一 (内線 261)

TEL 0776-35-2661 (代表)

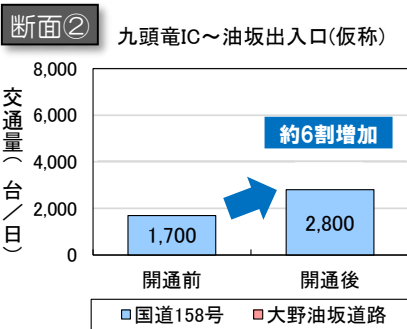
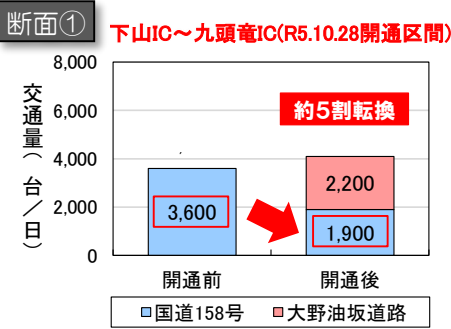
# 整備効果① 交通状況の変化

- 今回開通した大野油坂道路は、**下山IC～九頭竜IC:約2,200台/日(平日)**利用され、並行道路である国道158号の交通の**約5割が大野油坂道路に転換**しています。また、事業中区間(九頭竜IC～油坂出入口(仮称))の国道158号の断面交通量も**約6割増加**しています。
- また、大野市役所～和泉地域交流センター間の**旅行速度が向上し、所要時間が約11分短縮**しています。

## 大野市役所～和泉地域交流センター間の経路



## 大野油坂道路の交通量



出典：【国道158号】交通量調査  
 (開通前：R5年5月23日(火)、開通後：R5年11月14日(火))  
 ※12h交通量調査結果に令和3年度全国道路・街路交通情勢調査の昼夜率を乗じて算出  
 【大野油坂道路】交通量常時観測データ  
 (開通前：R5年5月23日(火)、開通後：R5年11月14日(火))

## 大野市役所～和泉地域交流センターのアクセス性

### 《所要時間》

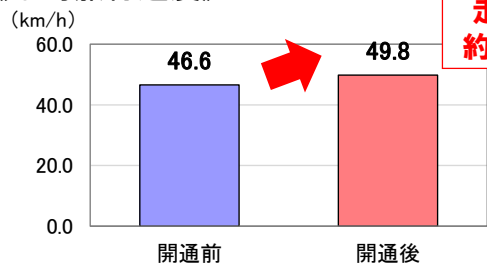
【開通前】国道158号経由(約29km)

約38分

【開通後】大野油坂道路経由(約23km)

約27分  
約11分短縮

### 《平均旅行速度》



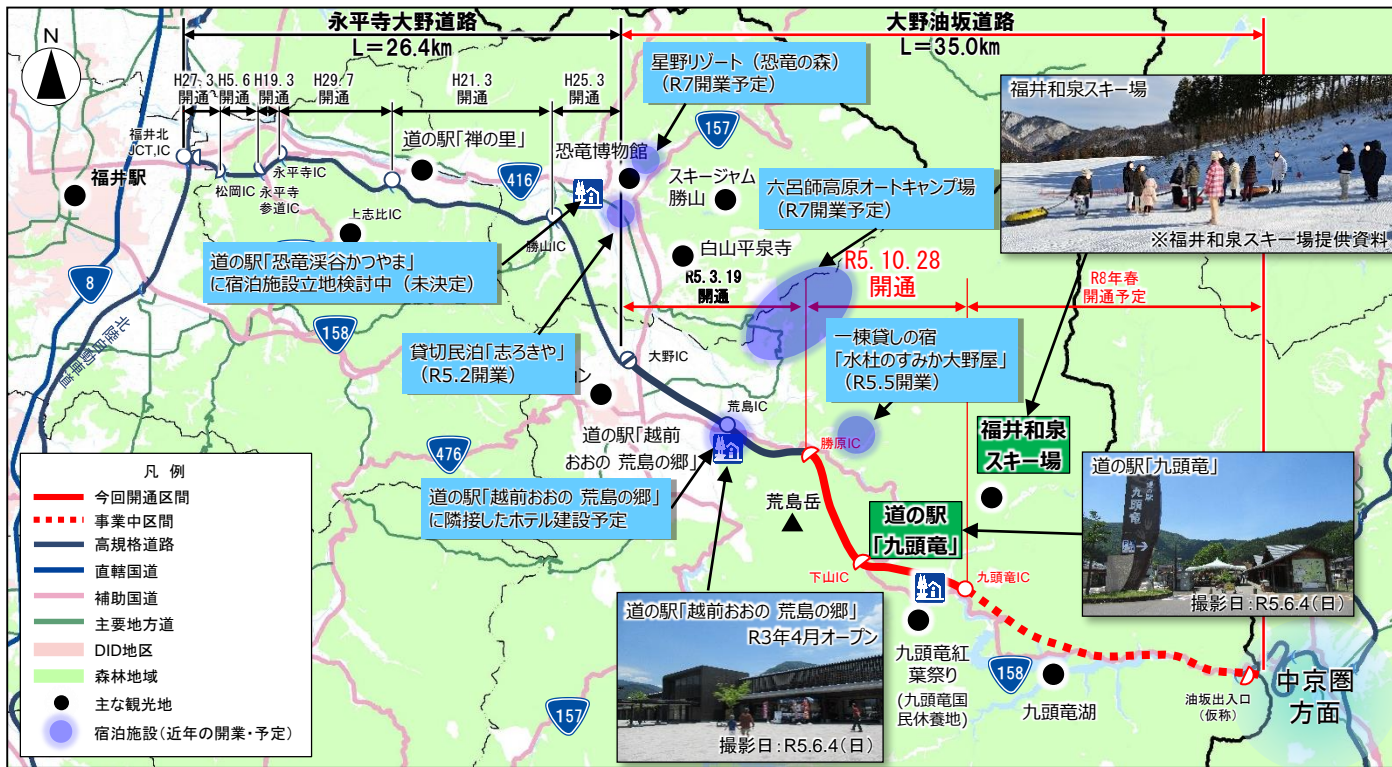
出典：ETC2.0プローブデータ【開通前】R4.11平日、【開通後】R5.11平日  
 7～18時台 上下平均所要時間 ※R5.11.28～30はデータ欠損のため集計から除外

出典：ETC2.0プローブデータ【開通前】R4.11平日、【開通後】R5.11平日  
 7～18時台 上下平均旅行速度 ※R5.11.28～30はデータ欠損のため集計から除外

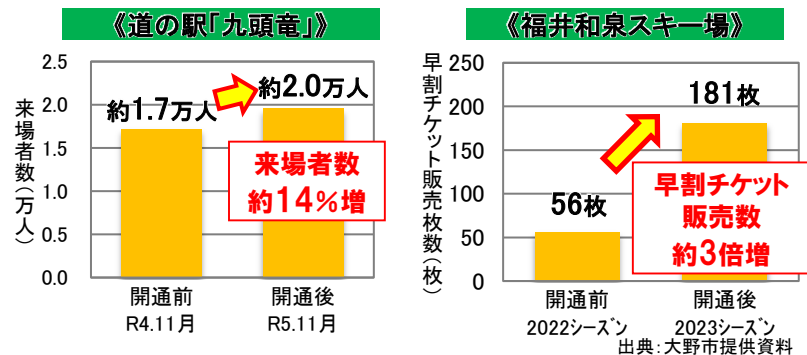
# 整備効果② 観光施設の賑わい

- 道の駅「九頭竜」では**来場者数が約14%増加**、福井和泉スキー場では**早割チケット販売数が約3倍**と、沿線観光施設への来訪が増加しています。
- 令和8年度の**中部縦貫道福井県内全線開通**を見据えて、沿線地域ではホテルやオートキャンプ場の開発が予定されるなど、**宿泊施設の建設が進行中**です。

## 大野油坂道路沿線の主要観光地と宿泊施設の近年の開業・予定



## 沿線のイベント・観光地の来場者数



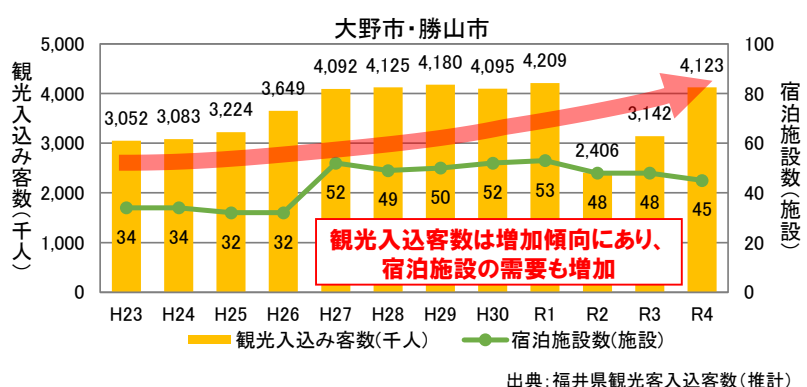
## ～福井和泉スキー場の声～

勝原IC～九頭竜ICの開通により、福井市内から当スキー場へ高速道路で直接アクセスできるようになり、大変利便性がよくなりました。

これにより今年のシーズンは、昨年度に比べ来場者が約2割増えており、福井市内や関西方面からのお客が増えていると実感しています。積雪地域ですので、高速道路で安全にアクセスできるという印象があったことが大きいと感じています。残りの区間が開通すると、中京圏からのアクセス性が良くなるため、さらなる来訪者の呼び込みに期待しています。

出典: ヒアリング調査(福井和泉スキー場 R6年1月)

## 大野市・勝山市の観光入込客数と宿泊施設数の推移



## 大野市への宿泊施設誘致

### 《旧蔵生小学校校庭への宿泊施設誘致について》

- 中部縦貫自動車道大野油坂道路の全線開通を見越して、「合同会社ニューツーリズム・トリップベース3号」が大野市に進出。
  - 道の駅「越前おおの 荒島の郷」の近傍にホテルを建設。観光誘客及び経済波及が期待。
- 【ホテルの概要】**
- ・場所 大野市蔵生(旧蔵生小学校 校庭(面積約5,094㎡))
  - ・規模 地上3階建 80室程度
  - ・建築主 合同会社ニューツーリズム・トリップベース3号
- 出典: 大野市報道資料(R5.11.21)をもとに作成

### 《大野市産業政策課の声》

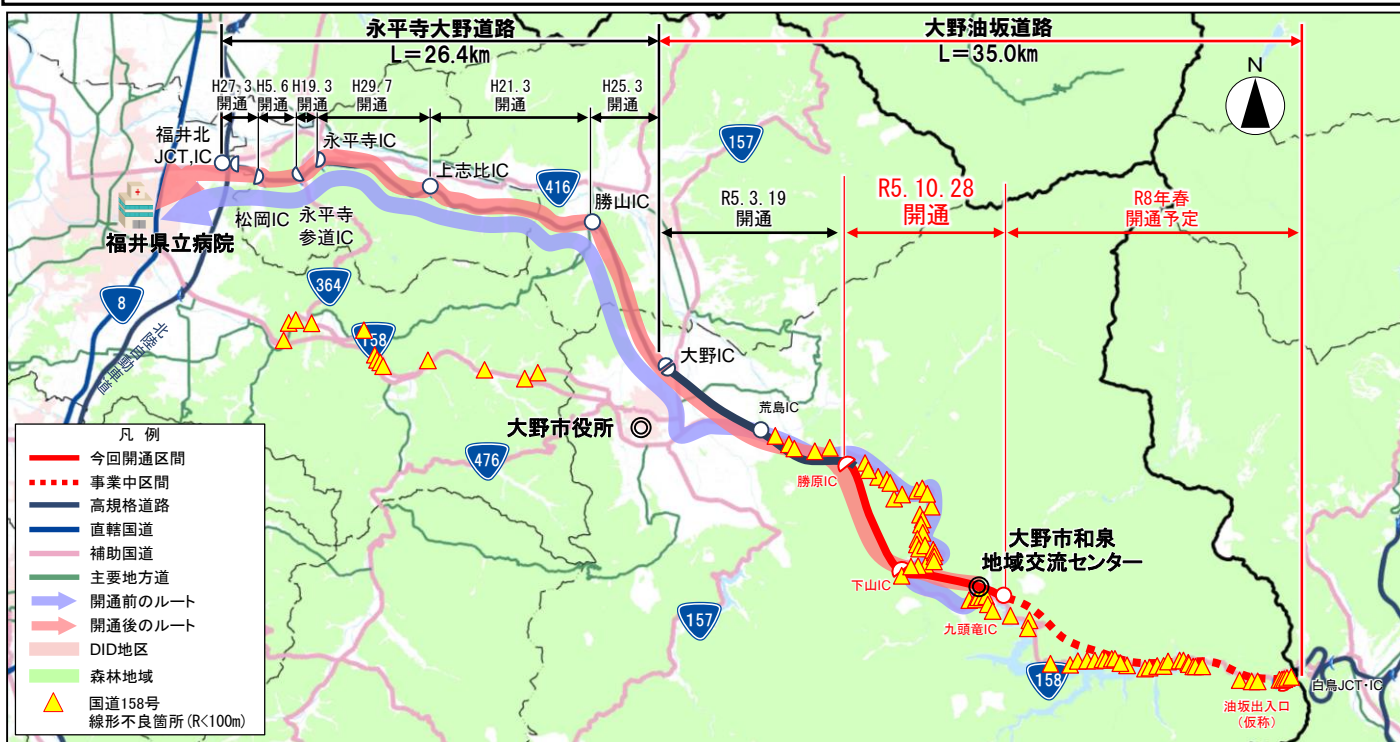
ホテル建設予定地は、日本百名山の荒島岳を望める素晴らしい光景が広がっており、中部縦貫自動車道の県内全線開通で交通アクセスの向上も見込まれることから、今回の進出につながったと捉えています。

中部縦貫自動車道の県内全線開通を迎えるにあたり、進出するホテルと道の駅「越前おおの 荒島の郷」や市内事業者、行政が連携しながら、観光誘客および経済波及に繋げていきます。

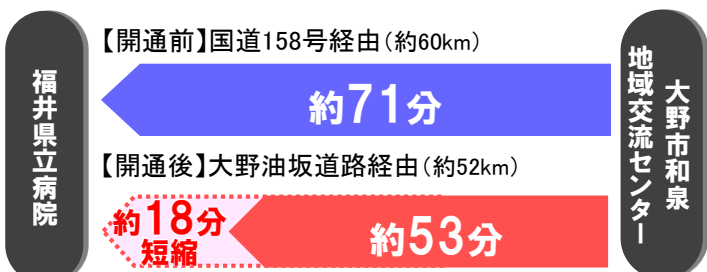
出典: ヒアリング調査(大野市産業政策課 R6年1月)

# 整備効果③ 救急搬送の速達性・安定性の向上

- 今回の開通により、和泉地域交流センターから福井県立病院への**所要時間が約18分短縮**しました。
- 勝原IC～九頭竜IC間は、並行する国道158号と比較して、**急ブレーキ・横揺れの発生頻度が約1/10以下に低減し、安定した走行が可能**になりました。
- これら所要時間短縮による速達性確保、横揺れ低減による走行安定性の向上により、安全で快適な移動のほか救急搬送時における**患者・救急隊員の負担軽減による医療活動支援も期待**されます。



## 和泉～福井県立病院間が約3割短縮



出典：ETC2.0プローブデータ【開通前】R4.11平日、【開通後】R5.11平日  
7～18時台 上下平均所要時間 ※R5.11.28～30はデータ欠損のため集計から除外

## ～大野市消防本部の声～

現在、和泉地区から福井・大野方面への救急搬送は、ほぼ全て大野油坂道路を利用しています。大野油坂道路の開通により、搬送時間は短縮し、カーブや路面起伏等がないため、傷病者の負担が減少、早期治療に繋がっています。

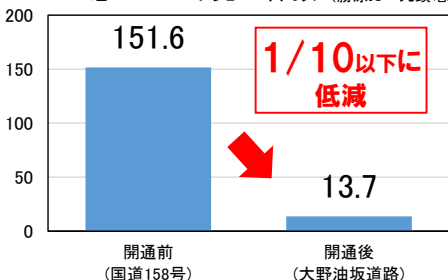
大野油坂道路を利用する搬送先

和泉地区からの救急搬送件数(R5年) 31件/年

※ヘリでの搬送は除く  
出典：ヒアリング調査(大野市消防本部 R6年1月)

## 走行時の安全性・快適性

(件/100台) 急ブレーキ発生件数 (勝原IC～九頭竜IC間)



(件/100台) 横揺れ発生件数 (勝原IC～九頭竜IC間)



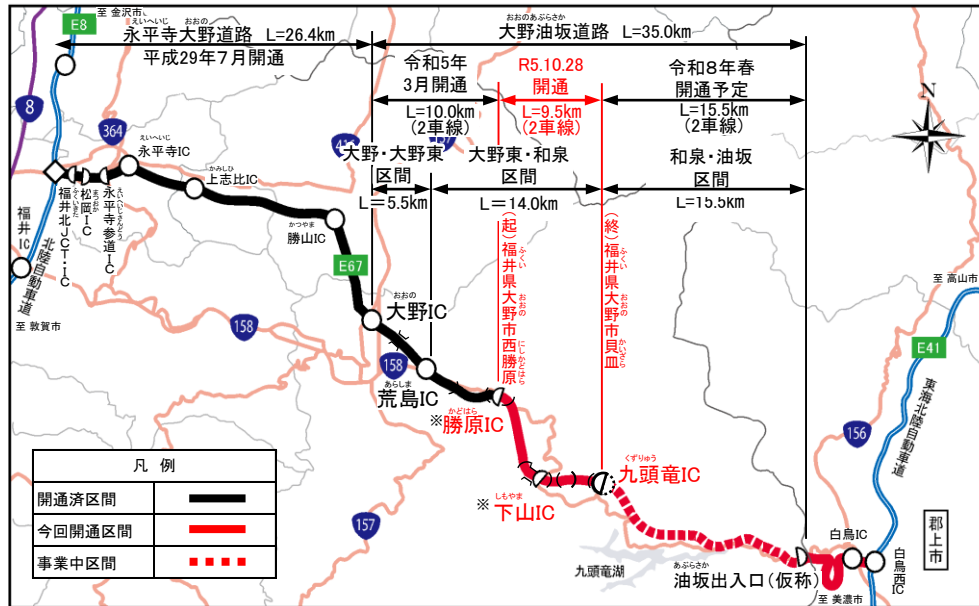
出典：ETC2.0プローブデータ (7～18時台、西行き)  
【現道】R4.11平日  
【開通区間】R5.11平日  
※急ブレーキ回数：-0.25G以上の前後加速度を対象に集計  
※横揺れ回数：±0.25G以上の左右加速度を対象に集計

# 事業の概要

中部縦貫自動車道は、長野県松本市を起点に飛騨、奥越地方を通過し、福井県に至る約160kmの高規格道路(自動車専用道路)であり、中央自動車道長野線、東海北陸自動車道、北陸自動車道を相互に連絡して広域交通の円滑化を図ることを目的としています。

大野油坂道路は、中部縦貫自動車道の福井県域を構成し、高速道路ネットワークの形成、異常気象時の交通の確保、文化・地域の資源を生かした地域の活性化を目的とした自動車専用道路です。

## 【位置図】



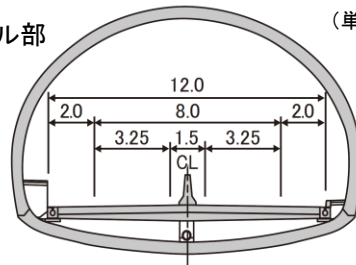
中部縦貫自動車道	—
開通済区間	—
今回開通区間	—
事業中区間	—
その他の高速道路	—
開通済区間	—

- ※勝原ICと下山ICはハーフインターです。  
 ・勝原IC、下山ICから岐阜方面へ流入できません。  
 ・九頭竜ICで流入し福井方面へ走行した場合、勝原ICと下山ICでは流出できません。  
 ・下山ICで流入し福井方面へ走行した場合、勝原ICでは流出できません。

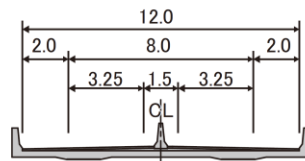
## 【事業の概要】

区間	大野油坂道路
	【大野東・和泉区間】 (起) 福井県大野市下唯野 (終) 福井県大野市員皿
道路延長	14.0km
構造規格	第1種4級
設計速度	60km/h
車線数	2車線
標準幅員	13.0m

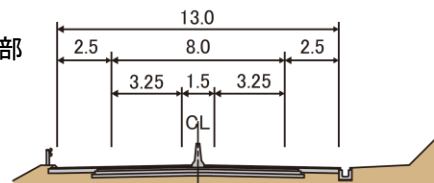
●トンネル部 (単位:m)



●橋梁部



●土工部



## 【主な事業の経緯】

区間	【大野東・和泉区間】
事業化	平成20年度
用地着手	平成24年度
工事着手	平成26年度